

2-2 戦争中の被害と加害 <基礎編>

今も未解決のまま放置されている問題とはなんだろうか？

日本国民の被害

1931年に満州事変が勃発し1937年に日中戦争が始まったことにより、日本国内では1930年代末から40年代にかけて戦争最優先の政治が行われるようになった。1938年に「**国家総動員法**」が成立すると国民生活も多くの負担を強いられるようになり、市民が消費するための生活物資は著しく窮乏して**切符配給制**が実施された。また**治安維持法**により言論・出版活動は厳しく弾圧され、戦争に反対したために警察官に殺害される場合もあった。

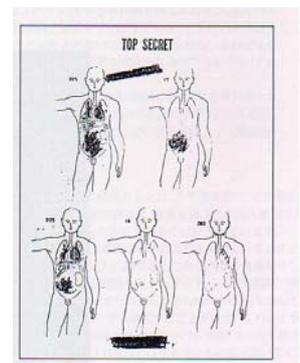
1942年頃から日本の主要都市はアメリカ軍の爆撃機による**空襲**を受けるようになり多くの損害が発生した（**東京大空襲**や、広島・長崎への**原子爆弾**投下が有名である）。**学徒動員・学徒出陣**によって学生も戦争に駆り出され、**学童疎開**【①】が行われた。また本土決戦のための「**捨石**」とされた沖縄では、住民を巻き込んだ悲惨な地上戦が展開された。また1945年8月にソ連軍が中国東北部に侵攻するとソ連兵による日本人居留民への残虐行為が起り、**中国残留孤児**や**シベリア抑留**の悲劇の原因となった。

日本による加害

一方、これらの被害の背景には、日本の政府や軍隊の近隣諸国民に対する多大の加害行為・国際法違反行為・戦争犯罪行為があった。

例えば、軍司令部は戦地の部隊に対して食料などは現地で調達するよう命じていたため、日本軍占領地では兵士による現地住民への暴行や略奪が横行した。「殺しつくす・焼きつくす・奪いつくす」（**三光作戦**）はその典型である。炭鉱を守るために抵抗した中国人ゲリラに対する報復として関東軍が村民全滅を図った**平頂山事件**や、30万人とも言われる多数の一般住民・捕虜を虐殺・強姦したことで有名な**南京大虐殺**も重要である。関東軍**731部隊**による細菌兵器の開発や人体実験、広島県大久野島における毒ガスの製造、また戦後毒ガス砲弾を中国大陸各地へ遺棄したこと、また徴兵で不足した男性労働者の不足を補うために朝鮮人（約40万人）や中国人（約4万人）の男たちを**強制連行**（拉致）して国内の炭鉱や軍需工場などで強制労働させたこと、軍の関与によって多くの女性が「**慰安婦**」とされ性的暴行を受けたこと、主として朝鮮半島で創氏改名・日本語使用・神社参拝が強制されたこと、中国大陸などでアヘン（麻薬）を高価で買わせて作戦資金を調達したことなどが、日本の加害行為として挙げられる。

①空襲を避けるため都市部の小学生が親元を離れ担任教師と共に農山漁村の寺院などに避難して集団生活を行った。



731 部隊が行っていた人体実験の記録。